

追手門学院大手前中・高等学校

校長 濱田 賢治

令和２年（２０２０）年度 追手門学院大手前中・高等学校 学校評価

１．目指す学校像

グローバルマインドセットを鍛え世界に貢献できる人材を育成する

２．中期的目標

追手門学院の教育理念「独立自彊・社会有為」を体現する人材育成をすべての教育活動の根本とする。

そのために

- １ 生徒の第一志望進路実現１００％を目指す
- ２ 新教育を実行する教育集団「チーム追手門大手前」の完成
- ３ 志願者あふれる学校
- ４ 安心安全な学校の構築
- ５ 働き方改革のさらなる推進

を目標とする。

３．自己評価アンケートの分析と学校評価委員会からの意見

（１）自己評価アンケートの結果（２０２０年１１月実施）

○ 生徒

すべての項目で昨年度以上のポイントを獲得しており、その中でも特にコロナ禍における学習対応、行事対応、健康対応においては高い評価を得ている。しかし、「学習意欲を高める取り組み」「学習習慣をつける取り組み」に関しては評価が低く、依然として「施設の利用」に関しても学年により評価の隔たりがある。

○ 保護者

入学を勧める保護者が７５％となり昨年度を上回った。「安心安全な学校生活」やコロナ禍における様々な取り組みに関しても高い評価を得ている。逆に生徒の評価と同じように「学習意欲」「学習習慣」に関しての取り組みに関しては評価が低い。

○ 教職員

コロナ禍で学校登校禁止期間が設けられた関係で、「クラブ活動」「校則遵守指導」などの評価は低い。一方で ICT 活用によるコロナ禍における「学習指導」「アウトプット教育」に関しては評価が高い。

◎ 分析

コロナ禍における「子供たちの学びを止めない」取組が一定の高い評価を受けた結果となった。とはいえ保護者、生徒共に「学習」に関する評価が依然低い。本校が目指す教育の中でどのようにして生徒の学習意欲を高め、学習習慣をつけることができるのか課題である。

(2) 学校関係者評価委員会からの意見

- ・コロナ禍における学校の取組みはよく工夫されたものであった。
- ・学校経営目標は学校の目指す方向がよくわかる。
- ・学習習慣と生活習慣は密接に関係している。家庭での教育も必要である。
- ・教員の働き方改革はこれからも推進してほしい。

4. 本年度の取り組み内容と評価

(1) 生徒の第一志望進路実現 100%を目指す進学校への転身

- ・国公立大学+医学部医学科合格者 20 名 難関私立大学合格者 50 名
- ・生徒、保護者のマインドセット
- ・教員のマインドセット

(評価)

第一志望進路実現を達成できた生徒は 60%と前年度をやや上回る結果に終わった。国公立大学の合格者も 12 名、難関私立大学への合格者も 25 名であった。ただコロナ禍にもかかわらず、7 名の生徒が海外大学への進学（米国・シンガポール・マレーシア・カナダ）を決定した。

第一志望を貫いた生徒も増加傾向にあり（20%増）保護者・生徒のマインドセットも進んでいるようだが、教員のマインドセット、自己研鑽も含めて今後も努力しなければならない。

(2) 新教育を実行する教員集団「チーム追手門大手前」の完成

- ・Global Science 教育の実践
- ・「3つの学び+リフレクション」の徹底
- ・探究活動の充実
- ・グローバルコースの設立
- ・海外研修の改革
- ・SSH（スーパーサイエンスハイスクール）認定に向けての取り組み

(評価)

コロナ禍における登校禁止期間においても生徒の学びを止めることなく、ICT 機器を駆使して本校の Global Science 教育を推進した。生徒の満足度は 80%

を超え一定の成果を収めることができた。2022 年度からのグローバルサイエンスコース、グローバルアカデミーコースの募集開始に向けてカリキュラムを完成し、細部の検討に入っている。残念ながら海外研修や海外の学校との姉妹校提携は進めることはできず来年度への持ち越しとなった。SSH の承認は 2022 年度承認を目指し、推進委員を立ち上げた。

(3) 募集の安定

- ・広報活動の強化
- ・成績上位の受験生の獲得

(評価)

中学校 105 名（定員 105 名）高等学校 292 名（定員 235 名）の新入生に入学していただいた。入学後のアンケートによって①安心安全な学校②教育内容の理解（個別最適化の徹底）③大学進学などが入学決定の主な理由に挙げられるが、これからも追手門学院大手前のブランドを大切にしつつ、安定した志願者数を確保するために特に進学の面を充実させなければならない。追手門学院小学校からも 15 名の入学があり、引き続き成績上位の受験生の確保にも努めていきたい。

(4) 安心安全な学校の構築

- ・教師力の強化
- ・リスクマネジメント力の向上

(評価)

本年度はコロナ禍における安心安全な学校づくりが大きな命題のうちの一つであった。結果としては保護者アンケートの結果にもあるように 90%以上の保護者が満足していると回答している。朝の検温の徹底、学習活動の中での予防、昼食時の指導など生徒たちの努力と教員の指導によりクラスターも発生しなかった。この活動は来年度からも継続していきたい。本年度新しくスクールロイヤーとスクールカウンセラーも導入して関係者と会議を持ち定期的に専門家の意見を聞くことができた。担任の先生方の負担軽減につながった。また、近い将来発生すると予測される南海トラフ地震に備えて、防災計画も新しく見直した。

(5) 働き方改革の推進

- ・ICT 導入による校務の軽減
- ・働きやすい職場の構築

(評価)

考査の採点に関する ICT の導入は教員の負担軽減につながった。今後は生徒

の出席確認に関しても、ICT 導入予定である。本年度は月に一度の土休日を設けて定期的に土曜日を休日にした。来年度からも土曜日を有効活用しながら、教員の休息確保に努めたい。

5. 来年度の取り組み

(1) 生徒の第一志望進路実現 100%を目指し、進学校へのさらなる前進

- ・国公立大学および難関私立大学への進学者増加
- ・共通テストを考慮に入れたシラバスの完成
- ・海外大学進学に向けての取り組み

(2) 新教育を実行する教育集団「チーム追手門大手前」の前進

- ・Global Science 教育の実践と徹底
- ・授業における「3つの学び+リフレクション」の徹底
- ・GA/GS コースの設立
- ・探究活動の充実
- ・海外研修の改革
- ・OM(追手門モジュール)の充実

(3) 志願者あふれる学校

- ・GA/GS コースを柱とした広報活動の充実
- ・追手門学院小学校との連携強化

(4) 安心安全な学校の完成

- ・教師力、担任力の向上
- ・リスクマネジメント力の強化

(5) 働き方改革のさらなる推進

- ・ICT 機器積極的活用による校務のさらなる軽減
- ・働きやすい職場づくり